

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立平原小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学方向上では、理解が十分でない児童への手立として、朝の時間の活用など適切な手段を講じていくこと。さらに、学習の基礎基本となるスキルを高める学習の取り入れ方も全校で取り組んでいく必要がある。 ・心の教育では、学校の特色を活かしながら児童のよさやがんばりをお互いに認め合い、自己肯定感に結びつくような機会をつくっていく必要がある。あいさつとのさらなる推進と言葉遣いの指導をはじめ、上級生が模範となり、その姿勢が下級生に伝わるよう職員が共通理解のもと、学年や全校で指導したり、縦割り活動の推進を図ったりしていくことが大切である。授業の中で、「地域のもの、こと、ひと」の活用を図り、地域のよさを体感するような活動を計画していく。また、学校に定着した「ひまわりの栽培・メダカ池・ホタル川環境保全」の充実を図り、自己肯定感を育んでいきたい。 ・来年度も重点課題とし、特別支援教育の充実を図りたい。

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く平原っ子の育成
----------	----------------------------------

- | | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 思いやりの心を持ち、ふるさとを愛し、自らの夢を育む子どもの育成 2 小規模学級・学校の強みを活かした学力向上への取組（基礎・基本の徹底と学習習慣の定着） 3 職員の協働意識と学校運営への参画意識を高める「チーム平原」の強化（共通理解と共通実践） 4 保護者・地域・外部の人材とのさらなる連携強化 |
|------------|--|

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価				
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
学校関係者評価		評価	意見や提言							
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○一人1回の授業研究を行い、全教員で授業研究会を実施する。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研究を充実し、算数科を中心とした思考力・表現力を育む効果的な授業の在り方を探る。 ・授業タイムを元の通り、基本的な内容を充実させる。 ・家庭学習については、基礎的・基本的な内容のものと児童の主体的学習を軸とした学習内容に区別し、 ・学習用具や学習習慣を共通理解を促し指導する。 ・びんごう・ふんごう・活用できるようにする。							学力向上担当 研究主任
	○学習内容の定着に向けた基礎的・基本的な内容の徹底	○学習が「わかった・できた」と回答した児童70%以上								学力向上担当 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80%以上	「挨拶・返事」運動の推進 ・人権教育や道徳科の授業づくりを通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・言葉遣いについては、全職員共通理解のもと指導し、「びんごう・ふんごう」の徹底を行う。 ・縦割り班活動を重視し、異年齢での活動を通して、思いやりの心を育てる。							人権・同和教育担当 道徳担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・自身の生活行いを含む授業において、児童の課題について話し合う場を設ける。また、普段から話しやすい雰囲気を作ります。 ・アンケートの結果を活用し、課題に応じた対応について研修を実施する。 ・アンケートを実施する中で、いじめの実態把握に努める。 ・事案の解決に向けては、学校として、組織的・計画的に取り組む。 ・教育相談体制を充実させ、スクールカウンセラーや保護者との連携を図る。							教頭・教育相談担当
	◎自主的な活動の場の保障 ・やり遂げた成果の自覚	○児童の企画・立案による活動を仕組み、やり遂げた達成感を感じる児童が80%以上にする。		・昼休みや朝の時間のボランティア活動を仕組み、絶えず成果を称賞し、自己肯定感を高める。 ・各種活動では、児童に活動の見直しと振り返りを活動を仕組む。						
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「規則正しい生活をしている」と答える児童80%以上にする。	・生活習慣等についてのアンケート調査を行い、分析し、生活指導に生かす。 ・学校便りや学級通信、保健便り等で、保護者の意識啓発を図る。							生活部
	○運動習慣の改善や定着化	○児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」の達成率が95%以上を目指す。	・体育的行事や縦割り活動を通して、「運動大好き子ども」を育てる。 ・授業で運動能力向上につながる動きや遊びを紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。							保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録による、勤務時間の把握を行い、定期的に声かけを行う。 ・長期休業を中心に、年休取得しやすい業務計画をし、取得奨励を呼びかける。 ・研修、校務改善のチームの共有化。 ・行事後、直ちに来年に向けて修正案を記入する。 ・登壇・登壇の推進。長期休業中に使いやすい職員室、教材室等の整理・整頓を行う。							教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価				
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
学校関係者評価		評価	意見や提言							
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・1月1回の「生活行い合わせ」等により、児童の情報を収集・共有する。 ・学期に一回、「支援会議」を開催し、学校の様子や保護者の思いの情報を共有し、特別支援に関する研修会の実施							特別支援教育コーディネーター

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---